

3X-3

オフィスシステムにおけるOA処理手続き

古川 利満, 幡鎌 博, 長田 格

富士通株式会社 OAシステム事業部

1. はじめに

オフィスの効率化をより進めるために、オフィスシステムでのソフトウェアの統合化が求められるようになってきている。

統合OAソフトウェア「EPOC-G」は、FACOM Gシリーズワークステーション上で各OA処理機能をサポートする統合ソフトウェア群であり、これらのOA処理の機能を手続き化して定型処理を行うのがOA処理手続きである。

この論文では、オフィスシステムにおける定型処理の必要性と求められる要件、さらにOA処理手続きの機能と適用例について説明し、OA処理手続きの在り方について考察する。

2. 定型化の必要性と要件

非定型な処理の多いOA処理においても、定型な処理が行われることも少なくない。

このようなOA処理での定型処理を手続き化するために次のような要件が考えられる。

- (1) エンドユーザによって手続き化できること。
 - ・ 手続きの作成/変更が容易であること。
 - ・ 手続き作成上の誤りが的確に通知され、誤りを発見しやすいこと。
- (2) OA処理全体の機能を手続き化できること。
- (3) ドキュメント化が可能であること。

OA処理の定型処理として次のような例があげられる。

- ・ 文書を作成し、宛先一覧から特定の条件で選んだ宛先にメールを発信する。
- ・ ホストデータベースから抽出したデータを集計してグラフ表示する。
- ・ イメージデータを読み込み、編集後、文書に組み込んで印刷する。
- ・ 線画を自動描画し、印刷する。

3. 実現機能

OA処理手続きには表1.に示すようなOA処理の機能を手続き化することができる。

表1. 手続き化機能

処理名	手続き化機能
共通処理	印刷, 基本編集(複写, 移動, 削除)
日本語文書処理	対話編集, 文字列探索, 文字列置換
線画処理	作図(点, 直線, 長方形, 円), 文字列イメージ読取り, 切出し, 拡大
表計算処理	表作成, 計算
グラフ処理	グラフ作成, グラフ表示
リスト処理	計算, 検索, 選択, 合成, 集計, 分類
カード処理	カード実行
キャビネットサービス	登録, 取出し, 検索, リポート印刷
メールサービス	発信, 受信, 検索

また、OA処理手続きには手続きの実行の流れを制御する機能がある。それらの機能を表2.に示す。

表2. 実行制御機能

機能名	機能概要
条件場 合 繰 り 返 し	条件によって処理を分ける。
代入	式の値によって処理を分ける。
分岐	条件を満たす間、繰り返す。
メッセージ	変数, 式に式の値を設定する。
キー入力	無条件に実行位置を変更する。
中断	メッセージを表示する。
	変数, 式に入力した値を設定する。
	実行を一時中断する。

4. 例：文書作成後のメール発信

次のような定常業務の手続き化の例を以下に示す。

(処理の流れ)

- ① 案内状の文書を「日本語文書処理」にて作成する。
- ② 「リスト処理」にて、案内状の送付先を名簿リストから検索し、宛先リストを作成する。
- ③ 「メール処理」にて案内状の文書を宛先リストの配布先に従って発信する。

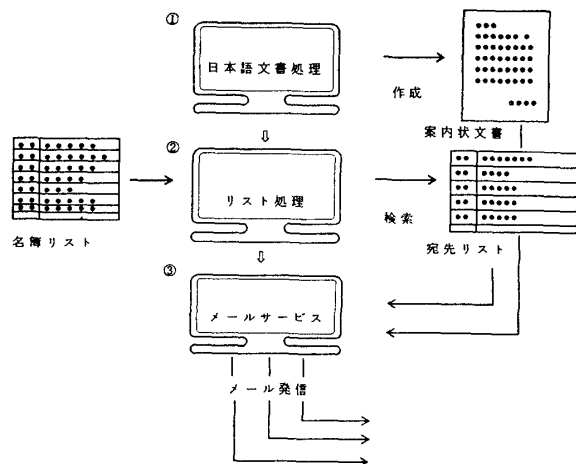


図1. 処理の流れ

〈手続きの例〉

以下に上記の処理を手続き化した例を示す。

OA手続きはこのように処理を表わす日本語文章にて表示される。

【日本語文書参照作成】日本語文書《MASTER》を参照して、日本語文書を作成する。
 【対話編集】対話操作で日本語文書を編集する。
 【確認終了】日本語文書名を《ANNAI》として格納し、処理を終了する。
 【リスト表示】リスト《MEIBO》を参照してリストを作成する。
 【検索】条件《研修会 = '出席'》により検索する。
 【保存終了】リスト名を《ATESAKI》として保存する。
 【検索終了】
 【メール発信】オブジェクト《ANNAI》を宛先《ATESAKI》に発信する。

5. 手続きの作成方法

OA処理手続きは対話方式にて作成／更新する。

OA処理手続きの作成においては以下のような特長がある。

- (1) 手続き化の操作は、その機能選択やパラメ指定などが個々のOA処理における操作方法と同じであるため、新しい操作方法を覚える必要がない。

各OA処理における操作を行うと自動的に手続きとして生成される。

- (2) 手続き化した機能は日本語文章にて表示／印刷できるので、そのままドキュメント化できる。

図2.に手続き作成の例を示す。

- ① 手続き処理を起動し、登録する機能としてリスト処理を選択する。
- ② 表示されるメニューから登録する機能を選択する。この例では「検索」を選択する。

基本	編集	画面	<input type="checkbox"/>	検索	<input type="checkbox"/>	拡張
0100: 【リスト表示】						

:						
				検索 選択 合成 列		

- ③ 選択した機能のパラメタを指定するオプションシートが表示されるのでパラメタを設定する。

基本	編集	画面	<input type="checkbox"/>	検索	<input type="checkbox"/>	拡張
0100: 【リスト表示】 リスト《REPORT》を表示						

:						
				検索		
				検索条件式: 研修会 = '出席'		

- ④ 登録した機能が日本語文章で表示される。

基本	編集	画面	<input type="checkbox"/>	検索	<input type="checkbox"/>	拡張
0100: 【リスト表示】 リスト《REPORT》を表示						
0200: 【検索】 条件《研修会 = '出席'》にて検索する。						

図2. 手続き作成の例

6. 手続きの実行方法

実行すべき手続きを選択し、実行を指定することにより手続きが実行される。

実行する順序は手続きに登録された実行制御機能によって制御できる。また、手続きの最後に登録されたOA処理機能の実行が終了すると手続きの実行が終了する。手続きの実行には次のような特長がある。

- (1) 対話にてOA処理を操作している場合と同様、個々の処理が終了するごとに実行結果が逐次表示される。処理結果の表示を抑制することもできる。
- (2) 実行中に発生した異常は対話にてOA処理を操作している場合と同様のメッセージが通知されるので異常の原因をすぐに解明できる。

7. インプリメントの方式

OA処理手続きは他のOA処理と連携することにより手続きの作成、実行を行う。

手続き化機能の拡張性を考慮して、連携のための情報はすべて連携するOA処理にて管理するようOA処理手続きを独立させた構成をしている。

OA処理は次のような情報および処理を用意することによりOA処理手続きと連携することができる。

- ・ パラメタフォーマット
登録する機能に必要なパラメタを規定するものである。
- ・ 日本語スケルトン
OA処理機能を登録したときに表示する日本語文章の型紙を規定するものである。
- ・ コマンド選択メニュー
登録するOA処理の機能を選択するためのメニューである。
- ・ 手続き連携用定義／実行部

OA処理でOA手続き処理との連携を行う部分であり、OA処理側ではこの部分でのみ手続き連携を意識する。

8. おわりに

OA処理手続きについては、OA処理の機能が多種多様であるため、現在、その適用範囲や効果を十分には把握できていないところがある。今後は、個々のOA処理あるいはそれらを組合せて業務を構築した場合に発生する問題点を摘出し、対処することが当面の課題である。

[参考資料]

幡鎌ほか：“オフィスシステムにおけるOA処理体系”
情報処理学会第37回全国大会(1988)